

— 家族会議のようすをお知らせ願う。

父 「この2週間、4度話し合った。有意義だった。初めはとてもぎこちなかった。」

母 「夫(父)ががんばってくれて…。本人ともようやく話が通じてきた。子供というのは、一度に大人になれないことが分った。」

姉 「家族みんながいたい本音を出した。」

弟 「今まで家族が話をすると、いつも僕のことだった。今度の話し合いで安心できた。」

— それで家族の皆さんに気持ちの上で、どんな変化があったか。

母 「夫(父)が頼りになる存在であることが分った。胸がスーッとした。」

姉 「いつもいららしていた。その気持ちがなくなった。」

弟 「家出をしたり、悪いことばかりをすまないと。思った。」

父 「もっと早く私の責任を果たすべきだった。」

— 今後、さらにどんな努力を続けるか。

姉 「弟の気持ちを分ろうとしてみたい。やさしく手助けをすることもやってみたい。」

母 「甘えさせる。母としての自覚をもつ。夫(父)にもっと寄りそうようにする。」

弟 「悪いことはすっぱりやめる。」

父 「家族が真剣に話し合うことで、お互いのきずなが強まり、その結果本人の行いも改まってきた。本人の問題は、実は家族全員の問題だった。さらによい家庭をつくらう。」

#### (4) 第8回面接 — 本人との面接 —

- 薬を1日2回、きちんと飲んでいる。カーツとすることがなくなってきた。
- 授業妨害や教室抜け出しをしなくなった。しかし、数日前バイクに乗った。悪いと思った。
- 体育館でバドミントン。ゲームに熱中。判定をいいかげんにしなくなった。
- 高校に進学したい。勉強したい。

#### (5) 第9回面接 — 本人との面接 —

- 担任の先生と何回も話し合った。今まで迷惑をかけてすまないと。初めての気持ちだ。
- 今つきあっている友だちと話が合わなくなってきた。カンパがきた。恐かったが断った。
- 情報処理室で、コンピュータ実習を見学。「こんな仕事をしてみたい。自信はある。」

#### (6) 第10回面接 — 並行面接 —

##### ① 本人

- 通学服、靴を学校で決められたのに変えた。
- タバコ、シンナー、バイク運転をやめた。
- 体育館でバドミントン。相変わらずぎこちないが伸び伸びシャトルを打つ。箱庭療法。



本人、「①テーマはオアシス。

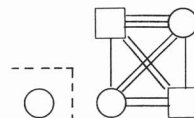
② のどがかわいていたが、ようやくオアシスをみつけた。」(家族と思われる4頭のラクダが家族の座に向かっていている。家族のきずながかたくなかった。)

##### ② 両親

- 家出などの問題行動がなくなってきた。
- 学校に妻(母)と行ってきた。落ち着いて生活しているときいてホッとしている。
- 多くの人に迷惑をかけた。これから夫婦で協力してよい家庭をつくっていく。

## 8. 考察

本人の、家庭や学校における新たな人間関係づくり、道徳性の涵養には、ロール・プレイングが有効であった。また、家族療法を機に反社会的行動を着実に減少させていった。それは、両親が自らの役割を自覚し、愛情をかけ、存在を認める養育を心がけ、不十分ではあるが



左図のような機能充實的な家族システムを構築したからである。

この過程で、本人も情緒が安定し、新たな自己像をつくりつつある。